

シンポジウム1

1日目 10月20日(木) 9:00 ~ 11:00

第1会場(福井フェニックス・プラザ 1F 大ホール)

健康長寿を支援する日常診療での取り組み

座長 西村 元一(金沢赤十字病院 副院長、外科部長)

望月 律子(静岡赤十字病院 副院長、看護部長)

- S1-1 当院における脳卒中診療の取り組み
名古屋第二赤十字病院 神経内科 安井 敬三 他
- S1-2 禁煙への取り組み
日本赤十字社和歌山医療センター 呼吸器内科副部長・禁煙外来担当 池上 達義
- S1-3 エビデンスに基づく転倒予防 - 多職種による多因子介入プログラムについて -
今津赤十字病院 リハビリテーション科 白石 浩
- S1-4 在宅ケアチームで地域を支える
富山赤十字訪問看護ステーション 加藤真理子
- S1-5 「健康長寿を支援する日常診療の取り組み」を食の立場から
山田赤十字病院 栄養課 太田真由美
- S1-6 健康長寿を支援する人間ドックにおける取り組み
日本赤十字社熊本健康管理センター 奥羽 孝文 他

S1-1

当院における脳卒中診療の取り組み

名古屋第二赤十字病院 神経内科

安井^{やすい} 敬三^{けいぞう}、伊藤 大輔、服部 誠、仁紫 了爾、川畑 和也、山田晋一郎、
横井 聡、中井 紀嘉、満間 典雅、長谷川康博

2025年に向けてますます進む高齢化社会では、脳卒中の高齢者が増えて総介護量も増し、社会的、経済的負担の増大が予想される。

脳卒中は予防が最も重要で、発症よりずっと前から始まる生活習慣の乱れすなわち運動不足、メタボリックシンドローム、喫煙、大量飲酒、不健康な食事を改善しなければならない。高血圧など生活習慣病を発症した段階では疾患管理をしっかりと行う。脳梗塞発症前に23%の患者は一過性脳虚血発作を経験しており、この段階ですみやかに治療介入すれば80%は脳梗塞にならずに済むとされる。市民と医療従事者双方に一過性脳虚血発作への関心を高めてもらう必要がある。脳卒中発症後は早期治療、早期リハビリテーション、再発予防がキーワードである。超早期に来院すればrt-PA投与が可能であること、その時期を越えても病期に合わせた治療が行えるのですぐに来院するよう啓蒙する。入院後は合併症を起こさず早期離床、早期リハビリテーションを実践する。合併症対策として再発予防、廃用症候群予防、感染予防、口腔ケア、栄養管理などに取り組む。これらはチーム医療であり、ミーティングを定期的に行って情報を周知しなければならない。病状が安定したら継続してリハビリテーションを行いADL自立を目指す。回復期リハビリテーション病院との脳卒中地域連携が重要で、そのツールとしての連携パスを整備し、活用することがすすめられている。

脳卒中は、発症前から慢性期までの各段階で取り組むべき課題がある。脳卒中の予防、後遺症軽減によって高齢者の認知機能とADLを守り、これからの健康長寿を支援していきたい。